

ご挨拶

同門会会長 邊見達彦

今年は西良教授が就任されて4年目を迎え、私も同門会長として4年目を間近にしています。同門の皆様にはご健勝でご活躍のことと存じます。

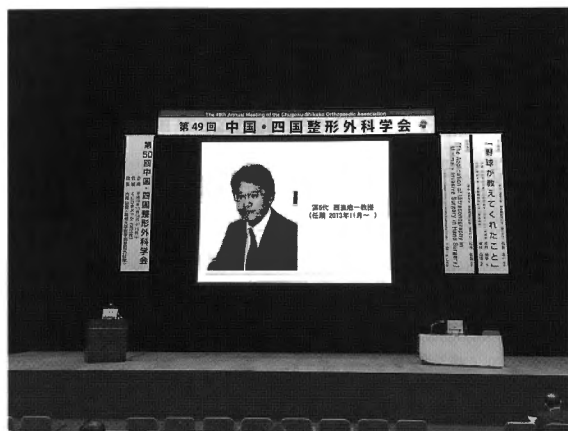
一方、戦後二度目の丙申年、激動の年と言われました。春の熊本、大分、秋に鳥取、直近では東北地方が再度地震に見舞われ不安な日々が続きます。被災地の同門会関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

今年一年を振り返りますとやはり医局・同門にとって初めての整形外科地方会である中国四国整形外科学会（平成28年10月22-23日）開催が最も記憶に残るものです。直前の鳥取地震で心配されましたが、おかげで無事開催されました。学会そのものは、医局、同門からも多くの演題応募があり全体では200演題を越す過去にない盛会となりました。また、内容はVS東京ということで地方の大学でも東京など関東圏の大学に負けずに頑張っている姿が見られるものでした。地方である徳島大学と神奈川県帝京大学の両方の大学で研究、臨床に従事され、東京の良さ、地方の良さ、ともに肌で感じられた西良教授ならではの企画であったと思います。この度の中国四国整形外科学会開催にあたっては西良教授より





同門会員の皆様に任意の寄付のお願いがありましたが、これも同門の皆様が医局を応援する気持ちを強く感じられる結果であったようです。この面でも医局の研究、学会活動への同門の皆様のご支援を西良教授とともに御礼申し上げます。



同門会の人々の動きに関してはいくつかの話題がありました。まずは徳島県医師会会長に齋藤義郎先生が就任されました。整形外科医師が医師会長になるのは極めてまれと考えます。医局、臨床整形外科医会、同門会を挙げての祝賀会を開催させていただきましたが心よりお祝い

申し上げます。次に国際交流では台湾の成功大学との間で交流が活発にもたれていました。同門の関連病院での人事交流では、三豊総合病院から大学に帰られた長町先生もお人柄もあり准教授として医局の中でベテラン脊椎外科医らしい存在感を発揮していると感じます。また、大学医局からは高松市民病院に積極的な支援を行い業績の回復が著しいそうです。私に関しては平成28年4月1日に徳島県鳴門病院長に就任致しました。

来年度は初期研修を終えた若い先生が数多く入局され同門会にも入会予定と聞いており、今後の教室の発展につながるものと期待しています。さらに、大変多忙な医局生活のなかで研究業績を積まれた先生方も外に向かったの躍進のチャンスをうかがって欲しいとこれも期待しております。

医局の活気、勢いを私たち関連病院の同門も肌で感じています。平成30年の日整会スポーツ医学学術総会開催、その後にはJASMISS（日本低侵襲脊椎外科学会）学術総会、平成34年頃には徳島大学整形外科教室開講70周年記念祝賀会、同じころ中部整形外科学会開催も予想されます。医局と同門会が車の両輪

としてスムーズに前進をできますように同門会員の皆様のご指導と益々のご協力をお願いする次第です。

最後になりましたが、向寒の折、お体には十分に気をつけられて楽しい毎日をお送りください。新しい年が皆様にとって良き年になりますように祈念申し上げまして会長ご挨拶にかえさせていただきます。